

みんなで考えよう「(仮称) 河合町まちづくり基本条例」

第1回町民ワークショップ開催結果

開催日時：令和3年10月23日（土） 午後2時～午後5時

場所：河合町立中央公民館 集会室

参加人数：30名

内容：①ミニレクチャー「まちづくり基本条例とは何だろう？」

②ワークショップ ミニレクチャーに対する質疑応答

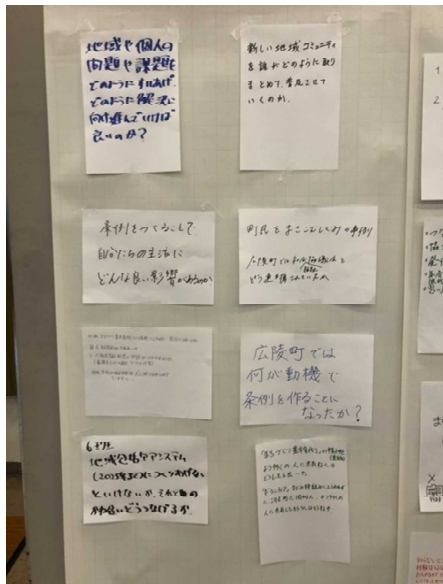
- ・河合町のよいところとは、どんなところでしょうか
- ・よいところを伸ばし、次世代に引き継ぐために、どんなことをしたらよいでしょうか
- ・条例に盛り込んで行きたい「大切なこと」とは何でしょうか



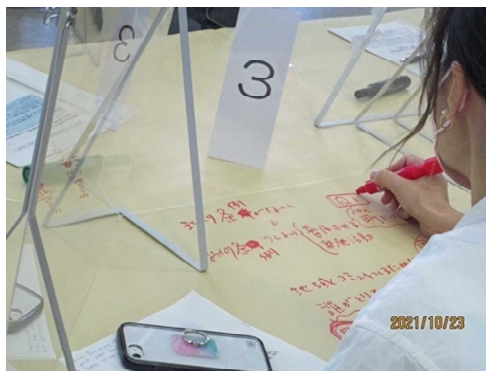
ワークショップの様子



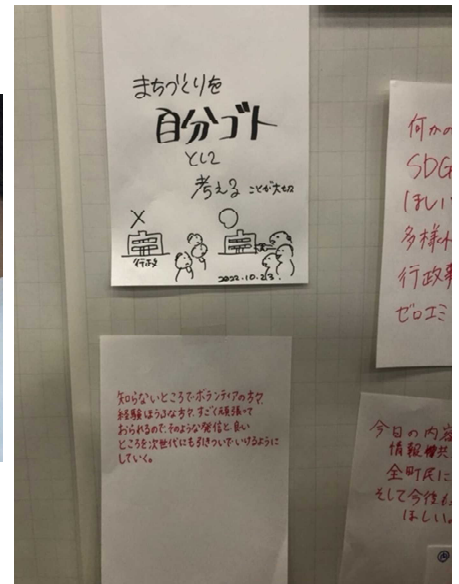
レクチャーへの質問を張り出す



たくさんの質問が出ました！



席替えをしながら議論をしました



条例に盛り込みたいこともたくさん

●ミニレクチャーへの質問

順不同

・条例をつくることで、自分たちの生活にどんないい影響があるのか？ ・現在ある情報との兼ね合いは	・町民を巻き込む仕組みの事例 ・広陵町では、社会福祉協議会とどう連携していたのか	・地域や個人の問題や課題をどのようにすくいあげ、どのように解決に向けて進んでいけばよいのか
・なぜまちづくり基本条例という名称にしたのか、自治基本条例ではないのか ・どの程度町民が条例制定にかかわるのか（審議会メンバーの選出、ワークショップ等） ・情報共有ではなく情報公開ではないのか	・広陵町では、何が動機で自治基本条例をつくることになったのか	・新しい地域コミュニティを誰がどのように取りまとめて、普及させていくのか
・まちづくり基本条例の精神（意識）をより多くの人と共有するにはどうしたらよいのか ・「ボランティア」などの枠組みにとらわれず、河合町に関わる人、より多くの人に共有してもらうにはどうしたらいいか	・地域包括ケアシステム（2025 までに）をつくりあげないといけないが、それとの兼ね合いはどうしたらいいのか	

●条例に盛り込みたい「大切なこと」

順不同

1. 住民参加の機会とその意見を大切にすること 2. 他町のよいところを積極的に取り入れること	・この条例を扱われる方の本気度だと思います ・形だけつくって終わりでなく、スタートであることを理解する	・行政まかせにしない ・町民の意見、要望を大切にしたらまちづくりに取り組む
・まちづくりボランティアに関わっていきいたいと思えるような意欲・意識を育む ・学校教育、生涯学習について	・町民全員が理解できる、まちのあるべき姿 スローガンのようなもの？ ※同じゴールに向かって全員野球で突き進みたい	・次世代には青い、美しい地球を残す（環境保全する） ・人を差別しない、させない ・しんどい人に思いやりの目と手を向ける ・平和都市宣言も入れてほしい
・つながり ・協力し合う ・発信 ・年齢（地位）超えたワークショップ ・思いやりの心	・何かの形で SDG s を盛り込んでほしい ・多様性へのリスペクト ・行政事業レビューも ・ゼロエミッション	・人と人のつながりを大切にする河合町で育った子どもたちが、又戻ってくるまちづくりを！ ・河合町のよさをアピールする条例を！
・まちづくりを自分事として考えることが大切	・今日の内容は情報共有として、全町民に伝えるべき ・そして今後も続けてほしい	・河合町の良いところを分かりやすい言葉で表現していくこと ・歴史の観点から表現していくこと ・住みやすい町 やはり安全・安心（防犯）
・知らないところでボランティアの方々、経験豊富な方々がすごく頑張っておられるので、そのような良いところを発信し、次世代に引きついでいけるようにしていく	・少子高齢化になり高齢者が気楽に集まる場所をつくってほしい ・大豆山の郷の開放 ・若い人のボランティア歓迎	・自然が多いまち ・人が暖かいまち ・子育てしやすい環境と高齢者をつなげたまちにしていこう
・河合町は 50 周年を迎えますが、現代は元気がない ・理由は高齢化が進み、負の遺産が多い。早い清算を	・行政と町民の間の壁をなくするための条例 ・情報の共有、見える化を促す条例	・誰でもが理解できるよいまちづくりをしていく中、その先のはいけいを伝える（イメージ）
・若い世代が集まれるような場所がほしい ・馬見公園でイルミネーションしたときは遠くからでも行った＝高校生 SNS を活用したらよいと思った	・歴史・自慢・名物を定めたい ・また、それを共有したり、新しくつくりあげるためのコミュニティ（年齢制限なく参加しやすい）の活動を活発に	・旧村と西大和ニュータウンの一体化（ひとつのまちとして）

・有志だけにたよらないまちづくりをしたい ・興味のないひとが大半であたりまえ。その人をいかに巻き込むか ・“ボランティア”ではなく、“自分の利益”になるなら参加したい人は多い。例：「子どもに豊かな経験をさせたいというニーズ、それを叶えるための体験とボランティアをからめる ・「強制参加」ではない、ふらっと参加できるコミュニティのあり方に変わるべき 例) “子育て”の切り口でワークショップ。そこでやりたいことを集めたメンバーでやる ・たとえば、梅田の「うめきた外庭スクエア」でやっている“パークトライアル”という実証実験”では、梅田地区の住民や企業で働く人が集まっているいろいろなコミュニティが発足しています。あれを河合町でやりたいものです。	問：まちづくり基本条例に盛り込んでいきたいことは何？ ↓ ・住民が自ら他の住民や自治体と共創していく（ティール、サーキュラーエコノミー） ・意見公表、審議を公表 ・第三者評価、オンブズマンなど ・検証すること ・自給率 ・産学官民連携 ・安心安全、循環型社会 ・災害から立ち直れる力を育てる ・生産寿命、健康寿命の延命につながる ・対話で解決 ・速やかな情報共有と発信 ・子どもの教育（平等な） ・自然と歴史、文化 ・自らの力を出し合う、協力し合う	・子ども園、馬見公園など SNS で魅力を伝える ・ボランティア精神をお持ちの方が多く、あいさつなどから受け継いでいきたい ・健康寿命は長い。商業、企業誘致 ・災害が少ない→住みたいまちアピール
・まちづくり基本条例に盛り込んでいきたいこと ↓ ・おもしろさ、もっと興味を持つ人が増えるように ・若者でも興味を持つような楽しいまちづくりがわかるかんじ ・基本条例をこの歳で知らなかった。大切なこと（自分のまちのこと）、小学校で教えてほしかったな	・子育てしやすいまち ・世代間の交流ができるまち（子ども～高齢者など） ・認知症や障がいがあっても住み続けられるまち ・買い物・病院など移動に便利な町	・衣食住の不安解消、子ども、健康、安全・安心、地産地消強化 ・河合町内共済のような助け合いのまち ・感謝の気持ち ・町内みんな友だち ・心をひとつにする条例にしてほしい
・世代を超えた、人と人の繋がりのあるまち（地域がボランティア等を通して長い時間をかけてつくられてきたもの） ・見えないまちづくりの見える化（情報の発信）	・町民 子どもから大人までの交流できるイベントづくり（ボランティアなどを引き継ぐため、横のつながりを広げる）	

●参加者アンケートより

性別	回答数	構成比
1 男性	10	35.7%
2 女性	18	64.3%
3 その他		

年齢	回答数	構成比
1 20歳未満	1	3.7%
2 20代		
3 30代	6	22.2%
4 40代	5	18.5%
5 50代	5	18.5%
6 60代	1	3.7%
7 70代	8	29.6%
8 80歳以上	1	3.7%

居住地域	回答数	構成比
1 池部	4	14.3%
2 穴間		
3 彩りの杜		
4 長楽		
5 城古		
6 市場	1	3.6%
7 西穴間		
8 城内		
9 大楠田	1	3.6%
10 築井		
11 山坊	1	3.6%
12 佐味田	1	3.6%
13 泉台	1	3.6%
14 聖和台	2	7.1%
15 広瀬台	1	3.6%
16 中山台	2	7.1%
17 高塚台	7	25.0%
18 久美ヶ丘	3	10.7%
19 西山台	1	3.6%
20 その他の地域	3	10.7%

基本条例の理解	回答数	構成比
1 よく理解できた	5	20.0%
2 理解できた	17	68.0%
3 どちらでもない	3	12.0%
4 どちらかといえば理解できなかった		
5 理解できなかった		

ワークショップの感想	回答数	構成比
1 参加してよかった	16	64.0%
2 どちらかといえばよかった	9	36.0%
3 どちらでもない		
4 どちらかといえば参加する価値がなかった		
5 参加する価値がなかった		

<アンケート自由意見記入欄より>

- ・河合町って本当あたたかい方が多いなと思いました。良さをもっと町民に知られると、もっともっと良いまちづくりができると思いました。
- ・優しいまちづくりを目指したい。
- ・環境の良さを生かしたい。
- ・民どうしの助け合い。
- ・素晴らしい取り組みですね！やはりリアルな場は良いと感じます。今後も、まちを良くする為の場づくりを大切になさって下さい。できる限り参加させていただきます。
- ・条例を作った後のことをどうするのか、評価や指標をどう考えるか。
- ・終了時間を4時30分と言われたのであれば守ってください。
- ・広陵町ではワークショップを3回開催しているが、(河合町では)2回の理由を。
- ・AEONが7月末で閉鎖されて中山台、星和台、広瀬台地区で買い物難民、跡地利用に注視している。
- ・懸念だった2小・3小併合は無事に通学出来ています。
- ・町づくりの原点にもどって考えないと方向性がおかしくなる。
- ・お互いに助け合える町づくり。
- ・指導者の有効活用により河合町を活性化させる。
- ・人口が少ない町において、できることはお互いに協力しあって明るいまちづくりが必要。
- ・いろんな世代の方とお話しできて楽しかったです。
- ・少しテーマが大きすぎて初めは戸惑いましたが、”河合町のいいところ”などを出し合うなどは盛り上がりました。
- ・河合町まちづくり基本条例に対して、河合町がどうしていききたいかなどが見えてこず、もう少し具体的に説明があればありがたかったです。
- ・まちづくり基本条例とは？何なのかがよく理解しました。
- ・河合で住んでよかったと思える町づくりができたらいいのに、住民の居場所作り、どうしたら人口減を食い止められるか？子供たちが増えるには、河合町の良さをアピールする条例ができたらいいです。
- ・“町のため”だけの視点ではなく、“そこに住むメリットは何か”を考えて、PRしていくことが大切だと考えます。住民も巻き込んでくださいね。
- ・それとは別に、これからは「河合町」単独ではなく、他と協力して“計画的に縮める”施策も必要かと思います。ぜひ、この町のためにも、財務、コミュニティづくりなどで、多面的にご検討ください。一員としてできることはしたいと思っております。
- ・基本条例が作成できたら内容を分かりやすく町民に伝えてほしい。